

✿ 発掘調査の概要

藤原宮東面中門・東面大垣の調査(飛鳥藤原第168-2次)

藤原宮は周囲を掘立柱の大垣により区画され、東西南北には各々3つの宮城門があったとされます。今回の調査ではこのうち東面の中央門(建部門)とこれにとりつく東面大垣を検出しました。調査期間は2011年7月21日から8月30日までで、調査面積は200㎡です。

調査では、まず、大垣推定位置で南北に並ぶ長辺2m、短辺1.5mほどの巨大な柱穴が予想どおり3基みつかりました。ところが大垣は調査区北側で途切れ、かわりに礫の詰まった穴が東西に3基ずつ2列並んでいました。これらは柱をのせる礎石の据付穴とみられ、この場所に礎石建物があつたことを示します。東面大垣中央に設けられた礎石建物となると門以外に考えられません。東面中門の南妻部分^{みなみつま}とみて間違いないでしょう。宮城門の調査例は今回で6カ所目ですが、本例は特に遺存状態が良好でした。

更に、2基の礎石据付穴を壊して掘られた土坑を断割調査した結果、中から巨大な礎石が2石みつかりました。藤原宮廃絶後に農地化の妨げとなった礎石を、穴を掘って落とし込んだのでしょう。礎石の大きさは藤原宮中枢部の礎石建物にも引けをとりません。東面中門がそうした建物に匹敵する規模と格式をもっていたことを教えているのでしょうか。

東面中門が将来その全貌を現せば、更なる成果がもたらされるでしょう。ご期待下さい。

(都城発掘調査部 森先 一貴)



落とし込まれた礎石(南から)